神宮寺小学校
理科室通信

理科室からこんにちは

第３号

～　親子で理科を楽しもう　～

平成 20 年 4 月 21 日

～　ちょうちょうの歌　～

今年は例年より早く桜が咲き，きのうは風が強かったものの，お花見にはちょうどよい暖かさでしたね。さて，この季節になるといつも頭の中に「？」マークが浮かぶ筆者です。その原因は，みなさんもおなじみの歌である「ちょうちょう」なのです。

ちょうちょう　ちょうちょう　菜の葉にとまれ　　菜の葉にあいたら　　桜にとまれ
桜の花の　花から花へ　　とまれよ遊べ　　遊べよ　とまれ

ここで歌われるチョウは何でしょうか。桜の咲くころ見られるチョウは，シロチョウの仲間やシジミチョウの仲間，タテハチョウの仲間です。その中でも，菜の葉を好むのはモンシロチョウの仲間ですし，普通によく目にするのもモンシロチョウです。だから，この歌で歌われている「ちょうちょう」とは，モンシロチョウとしちゃいます。そこで疑問となるのは次の歌詞の内容にある「モンシロチョウは桜の花を好むのか」ということなのです。長年，桜を観察してみて分かるのは，次の三つです。

①桜の花を飛び回るのはハチやアブであること
②桜の花の周りでモンシロチョウは見ないということ
③モンシロチョウだけでなく，飛び回るチョウを見ないということ

つまり，「歌詞は理科的に間違っている」のではないかということです。なんと夢のないお話でしょう，今号は。モンシロチョウはアブラナ科の植物に卵を産みつけ，その葉を幼虫が食べるので，菜の花畑やキャベツ畑に群れるのは自然なことなのです。しかし，蜜を吸い放題なはずの桜にはとんで行かないのです。

桜の花の蜜を吸うアブ

と，決めつけ暮らしていたらなんと！2005 年 5 月 2 日に，美郷町で桜に止まるシロチョウを発見したのです。私はとても興奮しました。今まで私が見落としていただけで，本当は桜に来るのか，と。しかし，残念ながら，風が強くて単にその木につかまっているだけのようでした。花から花へは飛び回らないし（風が強いので当然ですが），ストローになっている口はぐるぐるのまんまで，蜜をさぐったり吸ったりするしぐさは見られなかったのです。

桜の花にしがみつくシロチョウ

というわけで，この桜の季節，ちょっぴり観察してみませんか？